

会 議 録	
会 議 名	令和7年度第1回丸亀市放課後子どもプラン運営委員会
開 催 日 時	令和7年8月21日 10:00～11:30
開 催 場 所	マルタス ROOM4
出 席 者	出席委員 鎌田 明美・奥田 勉・澁谷 真由美・高橋 勝子・金丸 繁利・ 香川 真実・野崎 晃広・原田 伸二・窪田 美由紀・村尾 剛志 塩田 康広 欠席委員 奥澤 日登美 事務局として出席した者 末澤 康彦教育長・山下 友通部長・土井 節子課長・ 後藤 幸功副課長・小野 佳代子担当長・ 野口 耕平主任・三井 章子 傍聴者 なし
協 議 案 件	(1) 令和7年度丸亀市放課後子どもプランの現状と課題について ①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について ②放課後子供教室推進事業について
議事の経過及び 発言要旨	ー開会 午前10時ー 1. 教育長あいさつ 2. 委員長あいさつ 3. 議事
委員長	まず①放課後児童健全育成事業（青い鳥教室）について事務局から説明をお願いしたい。
委員長	【事務局説明】
委員	各委員さんから質問などがあれば発言をいただきたい。
事務局	現状の説明は理解できたが、丸亀市としての目指す方向性や課題の整理が不足していたように思う。
委員長	支援員不足や教室の面積不足は表面的な課題であり、放課後活動の充実が一番大事だと考えている。そこに向けて、支援員の人数や教室の面積を解決していきたい。
	毎回伝えているが放課後子供教室も含め、関わる人材の育成も必要だと思う。

委員	岡田小学校では暑さ対策のため、午前中に体育館で軽く運動をしている。 本校は狭いので総務課とも相談し、多目的室等を活用し、メリハリのある生活を送れるようにしている。このように面積の方は対応できると思うが、やはり支援員が足りない。資料を参考に支援員 1 人当たり何人の子供をみているか計算してみると、19 人を超える教室が 9 教室あった。学校教員でもなかなか大変であるが、青い鳥教室は更に学年がまたがっている。この先、支援員 1 人当たりの児童数を資料としてまとめることで、支援員確保の必要性を訴える材料になるのではないかと思う。
委員長	今まで国の基準などで話をしてきたが、人が集まらないというところで支援員の負担が大きくなり、仕事が大変というところで敬遠されているところがあると思う。一方で保育の質を担保するため、各教室の人的配置状況を示してほしい。 次に②放課後子供教室事業について事務局から説明をお願いしたい。 【事務局説明】
委員	資料を見てもらうと、各クラブの取り組みは多様で、活動内容も異なる。 わんぱくクラブでは屋外での活動や畑の活用など、いろいろな取り組みをしている。これからも厳しい暑さが続きそうなので、青い鳥教室同様、暑さ指数の測定機器を目安としたい。それと、他のクラブでも話はあるが、スタッフの高齢化と人材確保の苦労がある。コミュニティ内で声掛けをしているが、なかなかうまくいかない。
委員長	暑さ指数については子供教室の方も青い鳥教室と同様の運用でいいと思う。
委員	市内に放課後子供教室が増えてきたことは嬉しく思うが、地域で格差が生まれてきているので、各教室が同じような形で取り組んでいくのがベストだと感じる。また、多くの保護者は子供たちにいろいろな体験をさせてあげたい、夏休みの期間中、少しでもどこかで子供をみてもらいたいという思いをお持ちなので、これからも未開室の地域に展開して欲しい。
委員長	放課後子供教室は青い鳥教室と違い、地域に依存した運営をしているので、キーパーソンがいなくなると続けることが難しくなるという問題が発生する可能性が十分にある。また、全小学生の 31%が青い鳥を利用しており、そこにプラスアルファし放課後子供教室を利用している児童を考えると、ある程度の児童が放課後支援を利用している中で、放課後子供教室が持続できなくなると子供の行き場がなくなってしまう。どのように放課後子供教室をサポートしていくか。
委員	スタッフとして動いてくれそうな方に声をかけるが、なかなか難しい。参加しや

委員長	すい雰囲気を作り、横のつながりを一番大事にしてやっていきたい。 丸亀の場合、校区ごとにかなり色が違う。人材の掘り起こしも大変なことである。地域の方々の善意による運営の限界と、質の担保の必要性がある。市として、5 年後、10 年後を見据えた持続可能な支援体制の構築が必要である。
委員	子供たちの体験活動というものもあるが、スタッフ同士の集まりも楽しい。高齢者同士で情報交換をしたり、ネットワークを利用してイベントを企画したりする。
委員長	地域に眠っている特定の分野に強みを持つ人、団体、事業者の協力を得て、子供たちの体験活動のメニュー拡大につなげられれば取り組みも変わってくると思う。
委員	まなび文化課で所轄している丸亀市文化協会は約 100 団体あり、生涯学習団体は約 300 団体が登録している。この方たちの学びを社会に還元するという視点は以前から言われているが、なかなか実現していない。既にコミュニティや放課後子供教室で活動されている団体もある。まずはどういう団体がどのような活動をしているのかという情報提供をすることと、今活動されている団体が子供たちに対してできることはないかというアクションを起こすことが必要と考える。この一環で昨年度から、文化協会の後継者、担い手を増やしていくことと、子供たちにいろいろな体験をしてもらう目的で、学校行事の一環である全校クラブで、文化協会による出前教室を行っている。昨年に引き続き、今年度も城辰小学校で花の生け方の所作などを伝えてもらっている。お師匠さんといわれる人たちが子供たちに教えに行くということで、回を重ねるごとに子供たちに対する伝え方などのノウハウがついてきているように感じる。そういう意味では、まず、活動者の意識改革と、地域の方でもこのようなチャンスがあるのではないかとという視点を持っていただく。そこにはやはり予算が伴ってくる。文化協会の方では謝金は 1 人 3000 円をお渡しする仕組みだが、そこに頼らずとも、要望があれば団体と教室をつなぐことはできると思う。
委員	素晴らしいアイデアだと思う。放課後子供教室に関しては外部講師に対して 5000 円の謝金が出せるので、安心して紹介していただけたらと思う。ぜひマッチングして欲しい。
委員長	放課後子供教室のコーディネーターの方々とこうした情報を共有していただき、メニュー作りの際にはまなび文化課に相談することで、地域の団体や活動内容など、豊富な情報を活用できると思う。地域には、まだ知られていない団体が存在する可能性もあり、そうしたつながりを広げることで、活動の幅も広がる。

委員	今年度の取り組みを継続しつつ、将来に向けて関わる人の層を広げていくことが重要だ。コーディネーターの方々は、地域の人材や団体の情報を把握しながら活動していると思うので、総務課としても、他課が持っている情報を積極的に現場へ伝えていただきたい。 現在、放課後子供教室の新規募集などは行っているか。その状況について教えていただきたい。青い鳥教室はどこも定員がいっぱいで、支援員の人数も課題だが、どつきん☆くらぶのように夏休みに子供を受け入れている放課後子供教室が新たに増えれば、青い鳥教室の現在の飽和状態も少しは緩和されるのではないかと思う。そういった意味でも、今の放課後子供教室の新規受け入れの状況について、教えていただきたい。
事務局	未開設の校区に向けて、放課後子供教室の開設者やコーディネーターを募集するチラシやポスターをコミュニティセンターなどに掲示している。今年度は郡家地区で1教室が開設され、昨年度から準備を重ね、夏休みに3回実施することができた。ただ、自ら手を挙げて運営してもらえる方を見つけるのは難しい。将来的には各校区に教室ができ、子供たちの居場所が確保されることが理想だ。なお、放課後子供教室には市からの委託料やコーディネーターへの謝金もあるので、ボランティアに限らず、運営に関心のある方は随時募集している。
委員長	青い鳥教室は放課後の受け皿として重要な役割を果たしているが、利用者が増えすぎると保育の質やスタッフとのバランスが課題になる。特に放課後子供教室が未設置の地域では、青い鳥教室が唯一の居場所となっており、負担が集中している。人手不足の中、放課後子供教室では地域の方々や NPO、場合によっては民間企業の協力も選択肢として考えられる。ただし、営利目的の事業者に急に委託することで、地域に根ざした取り組みの質が損なわれる可能性もあるため、慎重な判断が必要だ。地域の力を活かしつつ、持続可能な運営体制を模索することが今後の課題である。
委員	放課後子供教室の運営者が楽しんで活動しているという話が印象的だった。地域の力や人とのつながりは非常に重要だが、最近は退職年齢の延長により、地域活動への参加が遅れる傾向がある。そのため、放課後子供教室などの活動を市民に広く知ってもらうことが大切だ。活動内容や講師の情報を発信することで、退職後に「自分も参加してみようかな」と思う人が増えるかもしれない。1人でも多くの人に関心を持ち、つながることで、地域に新たな可能性が生まれると感じた。

委員	城坤地区では、ろくごう夢クラブが7～8月に活動を行っており、コミュニティの健全育成部会では「子供の自主性を引き出す」ことを重視している。活動は子供たちの雑談から興味を拾い、算数教室やダンスチームなどを自発的に立ち上げている。年齢の違いを活かし、中学生が小学生を教えるなど、自然な役割分担も生まれている。また、地域行事（敬老会や祭り）では子供が司会を務めるなど、実践の場も提供している。子供たちはいきいきと活動しており、仲間を自ら呼び込むことで参加者も増えている。今年からは城西高校の生徒も地域活動に参加し、防災支援などをテーマに取り組んでいる。こうした活動は、担い手の確保が課題ではあるが、地域全体で健全育成を進めることを目指している。
委員長	ろくごう夢クラブでは、子供たちの自主性を尊重して活動を展開しており、口コミで参加者が増えるなど、地域の中で自然な広がりが生まれており、非常に良い取り組みだと感じる。しかし、こうした活動は地域内では知られていても、市全体には十分に発信されていないのが現状である。担い手の確保や新たな参加者の掘り起こしには、広く情報を届ける仕組みが必要だ。そのため、子育て支援課・まなび文化課・総務課などが連携し、SNSを活用した情報発信のプラットフォームを作ることが有効ではないかと考える。チラシだけでは限界があり、継続的な発信によって市民の関心を高め、将来的な担い手の育成にもつながるはずだ。こうした取り組みはすぐに成果が出るものではないが、5年・10年先を見据えた戦略的な情報発信が必要である。各課が個別に動くのではなく、横断的に連携することで、地域活動の持続可能性を高めることができると感じる。
教育長	多くの事例から、「喜び」や「幸せ」が人と人をつなげるキーワードであると感じた。8月1日の子ども議会でも、子供たちが地域との関わりや感謝、活動の喜びを語っており、地域参加が持続可能なまちづくりにつながることが分かった。 また、ろくごう夢クラブの事例のように、子供同士の口コミやSNS的な広がりが参加のきっかけになることもあり、そうした仕掛けを市としてどうしていくか、将来的に何かしらの形になっていければというふうに思う。
委員	主に70歳以上の高齢者を対象に活動しているが、時々古民家で子供たちと一緒に祭りや芋掘りなどのイベントも行っている。コスモスまつりでは、約10人の子供たちが参加してくれた。子供たちが来ると、場が明るくなり、高齢者も元気になる。今後も、子供たちが参加できる機会を増やしていきたいと考える。

委員	夏休みは青い鳥教室の保育時間が 11 時間半と長く、毎日何かしらのイベントを企画しないと子供たちがもたない。支援員で工夫しながら企画しているが、それだけでは足りないのが現状である。そこで、まなび文化課が行っているような教室形式のイベントを、ぜひ青い鳥教室でも開催したい。子供たちにとっても良い刺激になると思う。
委員長	今回、まなび文化課から情報発信してもらえたので、窓口としてまなび文化課を活用できるのではないかと。回を重ねることで、現場の声やニーズが見えてきて、当事者の意識や動きも変わってくるはずだ。共有ドライブなどを活用して情報を整理・共有することで、より良いメニューづくりにつながると期待している。
委員	近年の物価高騰で、家計的に厳しいく、習い事を十分にさせてあげられない家庭もある。放課後子供教室がこのような家庭の子供たちの助けになるのではないかとと思う。
委員長	今後は、事業が縮小する前に予防的な対応を進め、持続可能な形を考えていく必要がある。そのためには、各課が持つ情報を共有し、市民にも分かりやすく発信する仕組みづくりが重要である。市民団体とのつながりや既存の資源を活用し、運営側が連携できるような仕掛けを作ることが求められる。総務課を中心に、関係課と積極的に情報を共有し、取り組みの効果を高めていくことが期待される。また、支援員の資質の維持も重要だ。質の高い支援を提供するために、研修や考え方を学ぶ機会を設けることが必要である。青い鳥教室だけでなく、放課後子供教室にも同様のサポートを広げ、両者が連携して機能する体制を整えていくべきだ。
委員	まず、文化協会や生涯学習関連の情報を共有していただきたい。また、放課後子供教室などの活動についても、市民に広く知らせていただけるとありがたい。 今年度、私たち「さぬきっずこむシアター」と子育て支援課が連携し、丸亀市の提案型協働事業として、子育てに特化した YouTube チャンネル「まるちゅーぶ」を公式に開設した。8 月 8 日に配信が始まり、9 月以降には全世帯にチラシを配布予定である。今後、放課後子供教室や青い鳥教室の情報もこのチャンネルで発信できる可能性があると考えている。今年度で事業は一旦終了予定だが、来年度以降も継続できれば、小学生の居場所づくりなどの情報発信にも活用できると思う。
委員	今回の事業は提案型協働事業として地域づくり課の単年度予算で実施している。この提案をいただいた際、団体の皆さんが自分たちの活動を地域に向けて発信して

委員	いることに共感し、市としても広く情報発信できるプラットフォームで関わることで、何か新しい価値が生まれるのではと感じた。そうした思いから、今年度の企画として取り組んでいる。現在は、子育て世代向けの YouTube 企画を 1 年間の計画で進めているが、これが広く展開していければと考える。 学校教育の中で、子供たちがメディア漬けになっていることが心配で、SNS の利用に一定の制限をかけるよう、生徒指導を行っているが、健全なコンテンツは積極的に活用していきたいと思っている。また、市の公式ホームページなどから、子供たちが安心して見られる YouTube チャンネルへアクセスできるようにしていただくと、学校としても安心である。
委員	昨年、生涯学習関係団体連絡協議会を立ち上げた。これまで各生涯学習団体がどんな活動をしているか、互いにあまり知らなかったが、協議会を通じて情報共有が進んだ。例えば、大正琴の演奏や、木工クラブによる作品づくり、音楽クラブの活動などを、地域の「わんぱくクラブ」に協力してもらえるようになった。昨年からは始めた取り組みだが、利用者も増えてきている。また、支援員やスタッフの研修については、まんのう公園でのイベントにスタッフとして関わることで、実践的な学びを得る機会をつくった。そこで得た経験を地域活動に活かすという形で、研修の一環としている。
委員長	さまざまな活動を市民からは「どこで見られるのか分からない」という声もあるので、市民に分かりやすく発信することが重要だと思う。 各団体はそれぞれの場で活動していると思うので、市がしっかりとバックアップし、子供・保護者・地域・社会に情報が届くようにすることが必要だ。ぜひ、その点を検討いただければと思う。 本日の会を終了したい。皆様お疲れさまでした。
事務局	—閉会 午前 11 時 30 分—